

説教構造案 歴代下36章11～23節(20150531)

目標: バビロン捕囚・解放の事実を通して、イエスの十字架・復活は絶望の先に希望を与える御業であることを掴む。
 聖句: 「災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなた方に将来を与え、希望を与えようとするものである。エレミヤ書29:11」
 時間: 10分
 道具: ホワイトボード、ペン、枯骨の復活の絵(webより)
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5

段階	時間	教師から	子供の反応	備考
課題確認	2分	<p>イエス様の御業を挙げて下さい。</p> <p>十字架の御業と復活の御業は私たちにどのような意味があるのでしょうか。十字架のような苦しいことに遭っても、それを甦るようにして乗り越えられます、ということです。</p> <p>イエス様はこの御業を信じる者に成して下さるのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いやし ・十字架 ・復活 ・昇天 	<p>十字架と復活が出ればよい。 昇天は出ないと思われるが、それで構わない。</p> <p>考えさせることを主眼とし、そののち解答を提示す</p> <p>絶望からの希望の趣旨のもと、表現を工夫し、子供たちに運命の逆転を保証する御業だということを掴ませたい。</p> <p>この発言は、主の御業と私たちが繋がっていることを掴ませるためのものである。 課題確認で提示したテーマの具体例提示をする。</p>
課題探究	6分	<p>エゼキエル・エレミヤを思い出しましょう。王国は罪の故に滅亡してしまいました。その後どうなったと思いますか。</p> <p>586BCに滅亡したのですが、538BCに捕囚から帰還することができました。</p> <p>エレミヤの預言にこうあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よみがえった ・分からない 	<p>答えをあっさり出す場合には、なぜそう思ったか面白い意見が出るだろう。 滅亡したままという回答は出にくいと思われる。 686－538が70年でないと指摘する子がいたならば捕囚は3回に分け行われ、第一回目から数えると当に70年だったことに触れるとよい。 歌手のエグザイルの意味はこの「捕囚」という意味と伝えると興味を増すかもしれない。 暗誦聖句を提示し、今苦しんでいてもそれを神様思議に逆転して下さるとし、主を信頼するよう促す。 不思議な逆転が捕囚・解放として歴史に刻まれてことを主への信頼への励ましとしたい。 詩篇126篇は、捕囚から帰還した人々の歌である で、回復の感動を深めるために有用であると思う。 181号テキスト全体のテーマからの反映 今回の暗誦聖句例は、前節を抜いたほうが子供たがイメージしやすいと思う。</p>
まとめ	2分	<p>神様にいつも信頼しましょう 暗誦聖句</p>		